

## 1 自己評価及び外部評価結果

作成日： 平成24年12月27日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091200040		
法人名	有限会社モリモト		
事業所名	グループホーム田尻の里	ユニット名	南ユニット
所在地	福岡市西区大字田尻1520番地		
自己評価作成日	平成24年11月20日	評価結果市町村受理日	平成25年1月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構
所在地	福岡市博多区博多駅南四丁目3番1号 博多いわいビル2階
訪問調査日	平成24年12月10日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「好きに暮らして、明るく安心」をモットーに、安心で安全・安楽な生活環境の提供を心がけています。そして、障害を有されていても、尊厳ある生活者としての「いきがい」支援を願い、スタッフは今を大事に思って、笑顔を決やさないようにしています。介護保険事業者として、地域密着事業者としての期待に添えるよう、順法精神に立った、関係者に喜ばれる運営に努めています。

また、サービスの提供は、チームケアの重要性の理解に立ち、入居者と同じように、スタッフ相互の信頼関係如何は特に、その内容や質を左右するものと考えますので、失敗事例を大切に共有し、個々の反省も然りですが、それ以上にチームとして事例理解し、分析し、事故等の防止にこころがける服務姿勢を大事にしていきたいと考えています。権利擁護は、高齢者のみにではなく、チーム総員にも、その重さを認識すべきと考えています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

福岡市西区にある“グループホーム田尻の里”に到着すると、玄関に沢山の小さな靴があり、中から可愛い歌声が聞こえてきた。毎月恒例の地元の保育園児の来訪日であり、ご利用者の笑顔もいっぱい、ホームのピアノを先生が弾き、園児が大きな声で合唱されていた。開設以来、地道に地域に根差した活動を続けてこられ、農業地域でもあり、地元の特色を活かした“いちご狩りやみかん狩り”等も楽しませている。“介護は予防”と言う視点を大切に、日々のゴミ捨てはご利用者と一緒に行かれ、日めくりカレンダーをめくる方、洗濯物を干す方、調理の下ごしらえ等、ご利用者に応じた役割を担って頂いている。計画作成担当者を中心に両ユニットのスクラムが組めるようになり、職員同士の信頼関係も深まりつつある。職員が自主的に考える事を管理者は大切にしてください。家族会の企画なども職員中心に行われている。23年度から両ユニット合同の外出も増えており、居酒屋での食事も楽しまれ、お芋を外で焼いて、焼き芋を食べる機会も作られている。季節に応じて千石の里や雷山に出かけ、誕生日には海の中道マリワールドなどに行かれた。外出時はお化粧をして、おしゃれも楽しんで頂いている。

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域に生きる活動を支援」という理念はあるが、全職員が共通認識を抱いていないように感じている。地域に生きるとはどういう事か、じっくり話し合ってもいいかもしれない。	尊厳ある生活者としての“生きがい”を大切に、地域の中でその人らしく、生きがいのある暮らしを支援している。ご利用者の生活歴を把握し、それぞれの役割を担って頂くと共に、農業地域と言う特色を活かし、イチゴ狩りやミカン狩りを行い、地域の恵みを味わう事ができている。	今後は、より理念を意識して日々の業務にあたるように、会議などで話をしていきたいと考えられている。理念自体のあり方を職員主体で検討していくと共に、職員全員が納得できる理念を作り上げていく予定にしている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との交流という事がスタッフ間で共通の認識となっていない。保育園の運動会へ参加したり、公民館から映写機を借りたり、地域のボランティア受入、中学校の職場体験受入などの交流には努めているのだが。	25年度にスタートする、福岡市西区西部6校区地域密着部会の設立構成員として管理者が参画している。ホームには演芸ボランティアの方や保育園児の訪問も毎月あり、ご利用者の楽しみとなっている。中学生の学習体験も受け入れ、職員の企画で、地域の子供たちの人形浄瑠璃の発表会に行かれた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方が相談に来られた時などに、或いは、管理者等が、電話相談に応じたりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一回の開催は出来ていないが、今年からスタッフも加わり、また、一部入居者も同席して、状況報告などを行うようになった。今後開催数を増やし、座談会形式でやってみたい。	年に4回、運営推進会議を開催している。職員が参加するようになり、ご利用者の様子やホームの活動を知って頂く工夫も行われた。協力医療機関の事務長、訪問看護センターの看護師も参加して下さい、家族や地域の方々も含めて、色々な意見交換を続けている。	地域密着型の役割を踏まえ、訪問介護事業所や医療機関などの方の参加もお願いできればと考えている。有意義な会議開催を継続するためにも、内容を含めて回数検討も続けていく予定である。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	福岡市介護保険事業者協議会、市社会福祉協議会等が企画する行政関与の介護フェスタ等の機会を通じて、事業者として参画している。	計画作成担当者が、介護保険の申請や住所変更に伴う介護保険の手続きをしている。管理者は市の介護保険事業者協議会のネットワーク委員会の委員であり、地域密着のあり方や事業所間の連携に関する意見交換も続けている。市役所にも出向き、担当者の方との情報交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修に参加し、またユニット会議で報告をし、話し合いも行っているが、全ての行為を正しく理解できているかは疑問に感じている。更なる意識啓発勉強会や取組が必要。	職員全員“身体拘束はしない”という思いがあり、ご利用者の“ありのまま”を受け止めるようにしている。声かけにも配慮し、ご本人の不安や混乱を減らすように努めている。身体の小さな方でペット柵の隙間から落ちてしまう可能性があり、夜間のみ四方を柵で囲んだが、日中は行わず、見守りを頻回にする事で対応した。	身体拘束防止に関するサービスの心得について、ユニット間で勉強する機会を増やしていきたいと考えている。ご本人の心を癒す方法も含めて、職員全員で解決方法やアイデアを考えていく予定である。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	計画的に外部研修対応をし、またユニット会議で報告発表などして、意識向上等、理解に努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在対象者がおらず、具体的なミーティング事例はないが、外部研修参加での理解共有に努めている。今後、制度理解のために勉強会の必要性を感じている。	職員は日常生活自立支援事業、成年後見制度に関する外部研修に順番に参加している。研修会に参加できなかった職員にも資料を配布し、内部研修を行い、職員の制度に関する理解を深めている。説明用のパンフレットをもとに、入居契約時に制度について説明を行い、現在1名の方が成年後見制度を活用している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	新たに必要と思われる事項を追加する等して、出来るだけ事前の了解を得るよう説明を実施している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部評価でのアンケート、運営推進会議への家族の参加、今年は新たに家族会を行い、意見を伺うことができた。また、家族会の開催数、委員会の開催数を定期的におこないたい。	毎月“田尻の里たより”で日々の暮らしぶりを家族に伝えており、面会時や電話で家族に意見を伺っている。「定期的な家族同士の交流(家族会など)を行ってほしい」という意見を伺い、敬老会の後に初の家族会が開催された。企画は両ユニットの職員であり、家族との意見交換を深める取り組みを続けている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回、ユニット会議を行い、提案や質問等の話し合いをしている。改善できるところは直ぐに対応してもらっている。法人代表者の参加がないので要望等、或いは意見等を伺う機会もあつたらいいと思う。	両ユニットのスクラムが組めるようになり、職員同士の信頼関係も深まり、モチベーションも高まってきている。職員自身が当事者になり、自発的に考える事を大切にしており、家族会の企画も職員中心に行われた。ユニットから提案される案を管理者は尊重し、予算措置をして下さり、サービスの心得などの留意事項を適宜アドバイスして頂いている。	研修計画も計画作成担当者中心に作成している。評価表で自己チェックを行うと共に、半年ごとに個人面談を行い、職員自らの目標設定を行う予定にしている。お互いに反省し合える職場環境が作れるように、今後も取り組んでいきたいと考えている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	評価基準がないため、目標の設定が難しく、自己研さんへの意欲向上につながりにくいと感じている。自己チェックできる評価基準の新しい整備を予定したい。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	実施できている。	採用時には職員の仕事への思いなどを確認しながら、生活力や自主的に仕事できる方かどうか等を大切にしている。採用後も職員のモチベーションを維持するために、意見や不満を管理者に伝えやすい職場を作ると共に、得意な事などを発揮してもらっている。職員の離職も減り、チームケアも強くなってきている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	会議等で話はあるが、理解できているか疑問。分かりやすく、明確に伝えられるように共に努めていけるようにしたい。	管理者は“大切な人を守る”“生活歴を大切に把握する”などの重要性を職員に伝えている。介護の質はチームワークであり、人権擁護はホームの最高理念として、“職員に求められる原則10か条”の中にも、“尊厳”という考えが入っている。“人の痛みを感じられること、当事者意識を持つこと”を伝え続けている。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全てのスタッフが外部研修に参加する機会が持てるよう配慮しているが、職能等の評価基準が運用されてないため、場当たりのようになってしまう。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福岡市介護保険事業者協議会主催での「会員のつどい」に参加したり、外部研修時での交流がある。今後は、西部第6校区地域密着部会での交流機会が増えるかもしれない。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談時や、面談時に行っているが、その時点で、できれば、アセスメント、暫定プランのための詳細なカンファレンスを行えないかと考えている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人に対するのと同様に、入居相談時、面談時に行っている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時、面談時に、アセスメントをさせていただき、初期の対応支援に活かしている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	田尻の里での共同生活者として尊重し合い、良い関係づくりに努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族カンファレンスを行い、家族にしかできない支援を一緒に考えていただき、また、意見を反映できるように努めている。ただ、家族の意向によっては、苦勞させられる面もある。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の誕生日には、個人外出支援を企画し、実施している。御縁の深い場所などに出かけたり、ご希望を叶えるようにしている。	家族などに年賀状や手紙を送ったり、電話の取り次ぎもしている。ご利用者の誕生日には、近くの海辺のお店で昼食を摂り、帰りに二見が浦などのドライブも楽しめた。家族と一緒に美容院に行かれたり、お墓参りにも出かけている。お友達も来て下さり、お部屋でゆっくり過ごされている。希望に応じて自宅にもお連れしている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方や、合わない方等、関係を把握し、食事やレクリエーションの席順などに配慮している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転所等移転先への面会等を心がけている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いは大切にしているが、難しいことも多い。十分に話を聞いたり、会議で検討したりして、基本的には実施できているのではと思う。	ご利用者の“ありのまま”を受け止める事を大切にしている。意思疎通が困難な方も表情などを丁寧に観察し、家族から好きな事や好きだった場所等を教えて頂くようにしている。職員サイドで考えるのではなく、ご利用者との会話の中から、「どのようにしたい」という思いや意向を把握するように努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から、情報を得るように、折に触れ、或いはプランニングに必要時に努力している。ただ、シートへの記入作業が不完全で、改善していく。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	経過観察、モニタリング、再アセスメントの実施を通して、継続的なケアサービスの実態把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	1人の利用者に3人の担当を決め、家族と担当者のカンファレンスを定期的に行っている。月1回、全スタッフでのカンファレンスも行っている。もっと関係者の意見が出るように工夫したい。	“介護は生活そのもの”と考え、介護計画を重視している。“花の水やり”“テーブル拭き”“日めくりをめくる”など、ご利用者の役割と共に、家族の役割も盛り込まれている。1つのユニットでは担当チーム中心に計画を作成し、家族を交えてのカンファレンスを行っている。計画別表も作られ、24時間全般のケア内容も作られている。	一方のユニットは、計画作成担当者が計画を作成している。職員が安定する状況も見ながら、より多くの職員が計画作りに関われるようにしていきたいと考えられている。

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	スタッフ間の会話の中で、情報交換は行われているが、全スタッフが共有できているかは疑問。情報はミニカンファとして文書で残すようになっているが、定着できていない。小さな気づきやアイデアを文書に残して、周知し合えるシステムを工夫したい。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居前の体験入居等、不安のある方に実施している。また、このほかにも、できる範囲での対応内容を検討したい。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	農業地域なので、いちご狩りや、みかん狩り等、地元の特色を生かした楽しみ企画に努めている。他にも様々な地域資源を活用できるようにしていきたい。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族からの希望で、かかりつけの歯科医受診を支援している。受診支援は、都度必要に応じて、対応していきたい。また、家族の協理理解の重要性についても伝えて協力をお願いする。	往診が可能な事もあり、森本医院にかかりつけ医を変更される方もおられる。受診結果は医療受診報告書に記載し、家族に報告している。職員は病気を学ぶと共に、BPSD行動の自己防衛や長年の生活習慣や環境からの影響も含めて、ご利用者との関わり方を検討しており、医師からのアドバイスも頂いている。	今後も、より密な医療連携に取り組むための方法を検討している。ホームの窓口になって頂ける医院の看護師を決めて頂き、訪問看護なども含めた検討を続けている。職員も積極的に必要な質問をしていくなど、森本医院との協力体制を作る予定にしている。
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	特変があれば、連携する森本医院へ相談しているが、医療機関側の状況もあって、協働できているとは言えない。気軽に相談可能な看護師のアドバイスを得られるシステムが必要。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	お見舞いや、面会時、或いは電話で打ち合わせなど、相談支援に努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療体制、設備体制、リハビリ体制等、重度化対応に必要な環境整備ではないため、困難な状況下にある。地域の他施設と連携をとり、退居時の転移先について、事前に時間をかけて家族に説明し、また、紹介やセッティングに努めている。重度化対応については今後、連携先と詰めて体制づくりをめざす。	入居時、医療が常時必要な状況や寝たきりの状況になった時、リハビリが必要な場合は、ホームでの対応が難しい事を説明している。重度化しないよう健康管理に努めると共に、心身状況によっては医師に紹介状を書いて頂き、病院を紹介する等の対応も行われている。医療ニーズの高い状況でもあり、専任の看護師の配置を検討し、対応を急ぐ必要性を母体医院とも共有しつつある。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	不十分で、行えていない。ミーティングで話し合いはしているが、不安が多く存在する。慌てないで対応できる内容の実地マニュアルの整備、ロールプレイ勉強会などの必要がある。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練行っているが、地域との協力体制は築けていない。 保存食やLED照明器具等の準備はしている。近隣との合同訓練や避難先の設定周知、家族連絡体制などの課題が多い。	災害マニュアルを作成している。年2回、両ユニット合同でご利用者と一緒に夜間想定訓練が行われ、その内1回は消防署との訓練が行われている。隣接する母体医院が避難先であり、医院には救護活動などの連携をお願いしている。災害に備え、3日分の非常食の準備や電池の要らない懐中電灯を用意している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	集団生活の中で慣れ合ってしまう、配慮できていない場面も多くある。	排泄や入浴の際も、さりげなく耳元でお誘いしたり、更衣などは個室で行う等、ご利用者の羞恥心への配慮をしている。ご利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねる言動にも気を配り、馴れ合いにならないように職員同士で注意し合うようにしている。個人情報の管理にも配慮している。	繰り返しの言動等に対して、時に職員の語尾が強くなる時がある。その都度、深呼吸をして気持ちをリセットしたり、別の職員が対応しているが、今後言動の振り返りを続け、職員全員で、ご本人の心を癒せる方法を考えていく予定にしている。
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できるだけ、声掛けを行い、また、個人の思いへの支援に努めているが、専門的には難しい場面も多々ある。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	管理業務優先になりがちではあるが、横になり休みたい方は休んでいただいたり、可能な限り応えたい場面での配慮に尽きたり、利用者のペースを守るのが、ケアの本則と考える。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出企画時では、おしゃれや化粧をしていただいたりする。新たな購入依頼を家族に申し入れながら、利用者や洋服などのショッピング、髪染めなどの美容など、楽しめるようにしている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みの把握ができており、パン食の朝でもご飯希望の方には対応できるようにしている。テーブル拭きや食卓の準備、下ごしらえ、下膳など残存能力を活かせるよう配慮している。	ホームの畑には、玉ねぎ、じゃがいも、スナックエンドウなどを植えており、ご利用者と一緒に収穫を楽しんでいる。カタログを見ながら“食べたいもの”を伺い、旬の食材を使った美味しい料理が作られている。調理やおやつ作りなどを手伝って下さる方もおられ、職員も一緒に食事をしている。食事中に家族が面会して下さる時もある。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランス良いメニュー作りを心がけ、偏食の方には栄養補助食品の提供をしている。水分摂取量の把握、また、誤飲誤嚥性の方に対しては、トロミ食などの提供に心がけている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っており、個人別の支援に当たっている。又、年に一度、歯科医の無料検診サービスを受け、個別指導を受けている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツ使用者はなく、紙パンツ使用者は4名で内1名は本人希望。排泄パターンを把握しており、失禁のない支援に努力している。布パンツ対応可の継続支援にも努力している。	ご利用者毎の排泄表を作成し、排泄パターンの把握に努めており、リハビリパンツから布パンツ(+パッド)に変更できた方もおられる。ご利用者の表情や様子を見ながら、個別の誘導を行い、トイレでの排泄支援に努めている。失禁時などは他の方に気づかれないように声かけするなど、羞恥心への配慮も続けている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給を心がけ、ヨーグルトや牛乳、野菜類の摂取を多く工夫した献立に留意している。また、服薬コントロールも、医師への状況報告に努めて、管理している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の希望に合わせた入浴は、体制的にも困難。行事や職員の配置で午前になったり、午後になったりしてしまう。夏場は2日に1回、冬場は3日に1回など、平等な入浴実施に努めている。入浴拒否の方にも機会確保に心がけている。	湯温や入浴時間(長湯)など、可能な限り要望に応じている。拒否が見られた方にも声かけを工夫し、心身状況によっては1人でゆっくり入浴される方もおられる。2人で介助する場合もあり、入浴時は会話や歌を楽しみ、ゆず湯なども楽しませている。シャワーチェアも購入され、脱衣所から浴室に安全に移動できている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	人によって、必要に応じて、居室での休息時間をとっていただいている。昼夜逆転の方には、昼間の活動を企画し、促して覚醒保持を確保している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全スタッフが全てを理解しているわけではない。勉強会を開く時間はないので、新しい処方、変更処方時に、その内容を共有するように努めている。		



自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カーテンを開ける、日めくりカレンダーをめくる、テーブル拭き、ゴミ捨て散歩、洗濯物干しとたたみ、調理下ごしらえ等、利用者に応じた役割、気分転換を支援している。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望での外出は難しいが、年1回の全員外出のほかに、少人数でのミニ外出や、誕生日での個人外出支援企画など、全利用者が行きたいところ、行けない所へ行く機会を持てるようにしてきた。	日々のゴミ捨てと一緒に行かれたり、隣の薬局でおやつを買物をされている。23年度から両ユニット合同の外出しており、莓狩りや虫見物などと共に、居酒屋での食事も楽しまれた。家族と外食される方もおられ、毎月の外食時には回転寿司なども楽しまれている。季節に応じて千石の里や雷山をドライブし、誕生日には海の中道マリンワールドや生まれ故郷などに行かれている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金に執着のある方は、家族と相談して紛失等があってもいい程度の金額を財布に入れてもらってる方もいらっしゃる。自己管理できる方は、そのようにされている。また、ショッピングでは、管理できない方でも、直接支払われるよう配慮している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話希望に応じたり、年賀状を送ったりしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の飾りや、行事の写真、利用者の作品等を掲示して、楽しい空間づくりに努めている。西日が強いので、グリーンカーテンや遮光カーテン設備を整備して、居心地のいい快適空間の提供に努力している。	リビングにホワイトボードを設置し、毎月の行事予定等をお知らせするようにした。玄関やリビングには、ご利用者が手入れしている観葉植物が置かれ、リビングの天窓からは明るい日差しが差し込んでいる。除菌も可能な大型の空気清浄機が置かれ、冬は加湿器を使用するなど、温湿度管理も行われている。1つのユニットにはピアノもあり、園児の来訪時や家族等が弾かれている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールが広いので、ソファ席と、テーブル席で、同じ空間スペースでも目線が合わず、他者が気にならない面がある。互いに空間共有していても、別のことが個々にできている。また、パーティー活用なども、用いている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に依頼して、馴染みのものを持参いただくように配慮している。必要に応じて、スタッフが模様替えや、装飾工夫をさせていただいている。	寝具や和傘、鏡台、仏壇等を自宅から持ち込まれ、植木鉢やぬいぐるみ、趣味だった絵画、教え子から貰った飾り物(ステンドグラス)も飾られ、居心地の良い空間作りが続いている。自宅との環境の違いを少なくするために、使い慣れた食器なども持参して頂き、居室のカーテンの色やデザインも選んで頂いている。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	障害物の除去、トイレや居室の表示、また、ベッドサイドアシスタントバーや、足元のセンサー付きマットの配置など、可能な限り、自立援助のための配慮に心がけている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		